

ジャニーズ事務所社長のジャニー喜多川が少年愛嗜好の持ち主であるというのは、有名な事柄である。

彼がジャニーズJrの子供たちにセクハラ行為を行っているという話は、1970年代からしばしば週刊誌等によって報道されている。北公次著『[光GENJIへ](#)』（1988年）や、木山将吾著「[SMAPへ](#)
[そして、すべてのジャニーズタレントへ](#)」（2005年）など、様々な告発本も出版されている。

1999年には週刊文春がこの問題に関する特集記事を掲載。ジャニー喜多川によるJrへのセクハラ・児童虐待、および未成年Jrの喫煙をスクープした。ジャニーズ事務所はこれに対し、週刊文春の記事を名誉毀損だとして、1億円の損害賠償を求める民事訴訟を起こした。

2002年3月27日に一審判決が出され、ここではジャニーズ側が勝訴した。東京地裁は800万円の損害賠償を週刊文春に命じるが、文春側は判決を不服として控訴。

2003年7月15日に二審判決が出されるが、賠償額は120万円に減額された。これは喫煙報道に関する部分のみの賠償額であり、ジャニー喜多川のセクハラは事実だと認定され、この部分の訴えは退けられた。

当然ジャニーズ側は最高裁に上告をしたが、2004年2月24日に棄却。こうして、120万円の週刊文春への損害賠償命令が確定したとともに、ジャニー喜多川のセクハラの実態は、裁判所によってお墨付きとなったのである。

この判決は海外のメディアで大きく扱われたが、日本では一部の週刊誌をのぞき、ほとんど報道はされていない。

参考：

北公次による告発本

- [光GENJIへ 元フォーリーブス北公次の禁断の半生記](#)
- [光GENJIへ・再び](#)
- [光GENJIへ 3 みんなで考えようジャニーズ問題](#)
- [光GENJIへ 最後の警告](#)
- [さらば!!光GENJIへ](#)
- [光GENJIファンから北公次へ](#)

北公次の呼びかけにより誕生した新・光GENJI（新・光GENJI・影）による告発本

- [8人目の光GENJI](#)
- [新・光GENJI ハロー・アイ・ラブ・ユー](#)
- [がんばれ!!光GENJI 新・光GENJIへの手紙](#)
- [新・光GENJI解散! 7人の新たなる旅立ち](#)

平本淳也による告発本

- [ジャニーズのすべて 少年愛の館](#)

木山将吾による告発本

- [SMAPへ そして、すべてのジャニーズタレントへ](#)